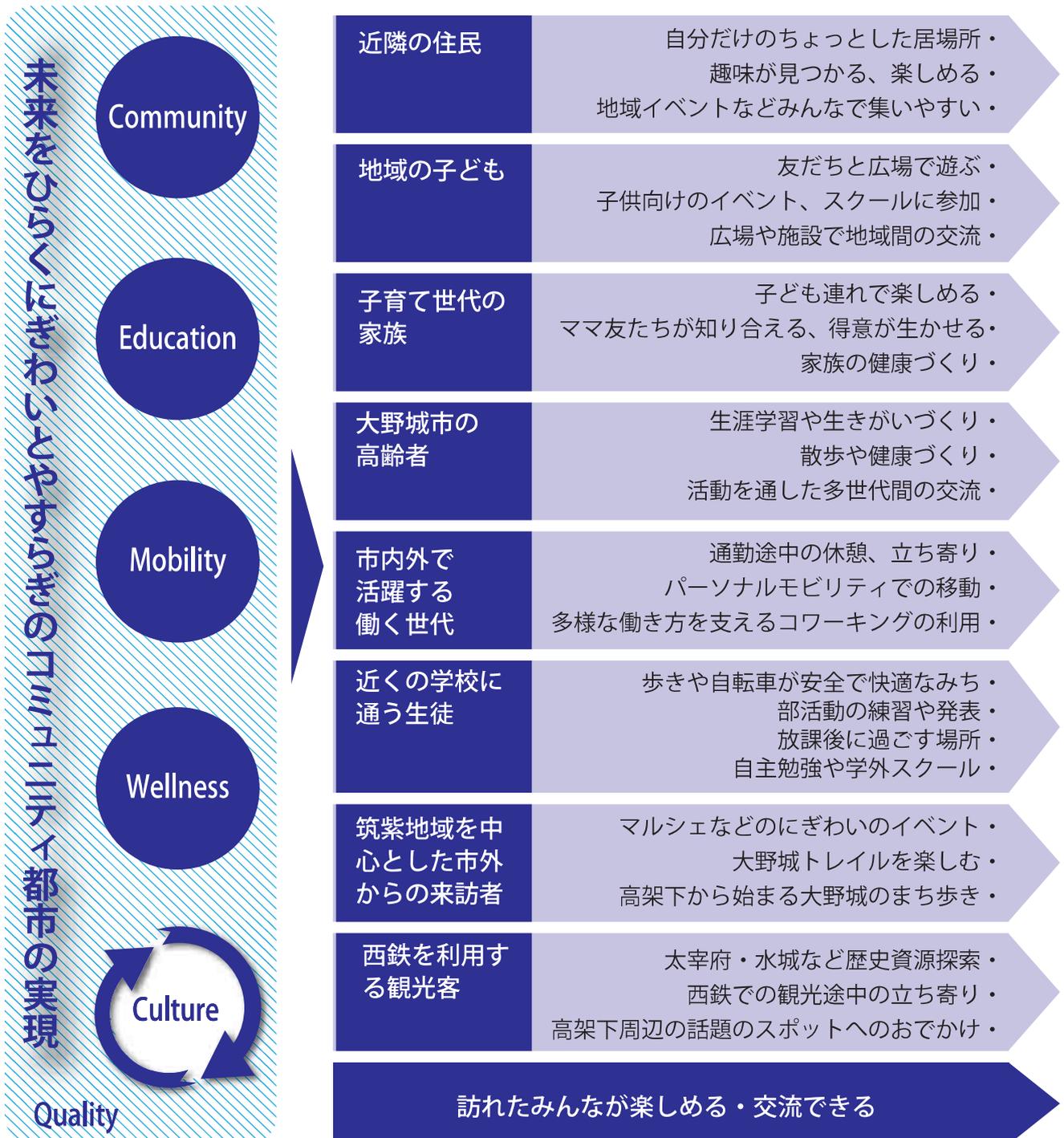


## 10. 活用基本方針

事業コンセプトの実現に向けては、整備内容の検討とあわせ、整備後における利活用や、その推進のための運営の在り方について検討する必要があります。ここでは、整備予定の空間ごとにイベント等における利活用の方向性として、その内容や実施に向けた体制づくりについて整理します。検討にあたっては、その実現性を高めるためのプロセスとして、将来実践することが想定される市民等と共に検討を行い、取りまとめるものとします。

### 【事業コンセプト】

### 【主要ターゲットと活動・シーン】



## 【利活用の方向性】

### 市民が主役となり、みんなで育む取組みづくり

基本計画（案）で示されたように、高架下周辺は、市民が主役となり主体的に高架下周辺を活用することにより、にぎわいが生まれ、その活気が周囲に波及することが求められます。その結果、高架下周辺や地域の魅力が発信されていくことが期待されます。ここでは、市民の力によって、学び、活動し、つながっていくことで、この場所のにぎわいが育まれていくための方針や取組みイメージを整理します。

#### 学びを育む

- ・ 子どもからお年寄りまで世代毎、世代間の学びの取組み
- ・ 市民活動の学びやチャレンジを応援する取組み
- ・ 地域の暮らしや文化・歴史を継承、発信する取組み

#### 活動を育む

- ・ 地域の資源や地域産業を活用し、地域活性化を促す取組み
- ・ 新たな交流やイベントなどの活動を生み出す取組み
- ・ 高架下周辺のさまざまなインフラや設備が連動する取組み

#### つながりを育む

- ・ 移動の利便性を高め、まちの回遊へと展開する取組み
- ・ 市内や周辺の活動と連携し、地域全体の活性化へとつなげる取組み
- ・ 市民、事業者、行政などの多様な主体が連携した取組み

# <具体的な活用イメージ>

以下のような取組みを市民とともに検討することで、計画の実現性や実行性を高めます。

## ■春日原駅周辺

### 【雑餉隈町区と栄町区との合同による夏祭り】

- 目的** : 活動やつながりを育む
- どこで** : 交流広場（春日原駅北側）
- 誰が（誰と）** : 雑餉隈町と栄町の地域住民
- いつ** : 年に1回
- 概要** : 雑餉隈町と栄町の地域住民の交流の場として、夏祭り等のイベントを実施する。



栄町区夏まつり  
(栄町公民館ホームページより)

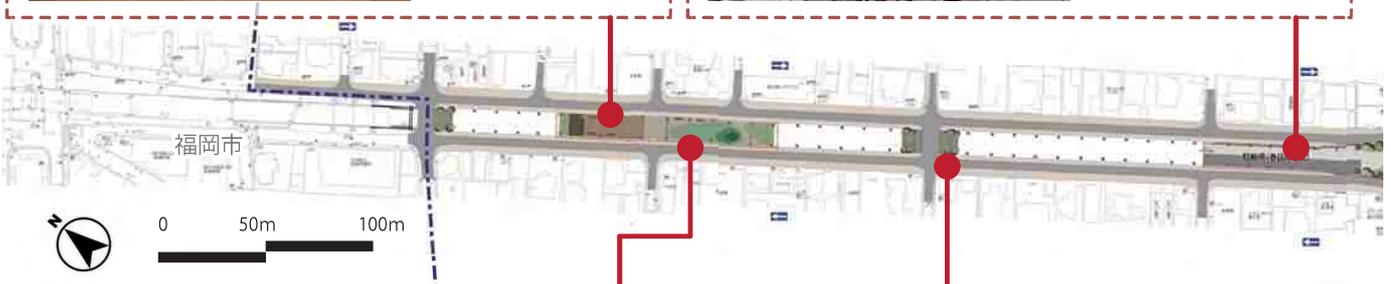
### 【春日原駅北駐輪場シェアサイクル】

- 目的** : 活動を育む
- どこで** : 駐輪場（春日原駅北側）
- 誰が（誰と）** : モビリティ事業者と連携
- いつ** : 年中
- 概要** : 駐輪場の一角を使い、シェアサイクルやパーソナルモビリティ



のレンタルを行い、まちの回遊性向上につなげる。

シェアサイクルのイメージ



### 【桜並木通りと連携したさくら祭り】

- 目的** : 活動やつながりを育む
- どこで** : 交流広場（春日原駅北側）
- 誰が（誰と）** : 地域住民
- いつ** : 年に1回（桜の時期に合わせて）
- 概要** : 地域住民の交流の場として、桜並木のライトアップと高架下で連続したさくらまつりを実施する。



桜の開花時期イメージ

### 【高架下の愛着を育む 地域住民による花壇づくり】

- 目的** : 活動やつながりを育む
- どこで** : 春日原駅北の交差点部
- 誰が（誰と）** : 地域住民
- いつ** : 定期的
- 概要** : 地域住民が交差点部の花壇を管理することで、高架下への



愛着や地域住民の交流の場を創出する。

花壇づくりのイメージ

**【商店街スタンプラリーの拠点】**

**目 的** : 活動やつながりを育む

**ど こ で** : 春日原駅東口駅前広場

**誰 が (誰 と)** : 錦町通り商店会、春日原東町商店会、  
春日原北町商店会

**い つ** : 第4土曜日など月に1回程度

**概 要** : 春日原駅周辺の商店街でイベント等を開催した際に、駅周辺の各店舗を巡るスタンプラリーの拠点とする。



錦町通り商店会  
(大野城市商工会ホームページより)



※春日市公表資料より

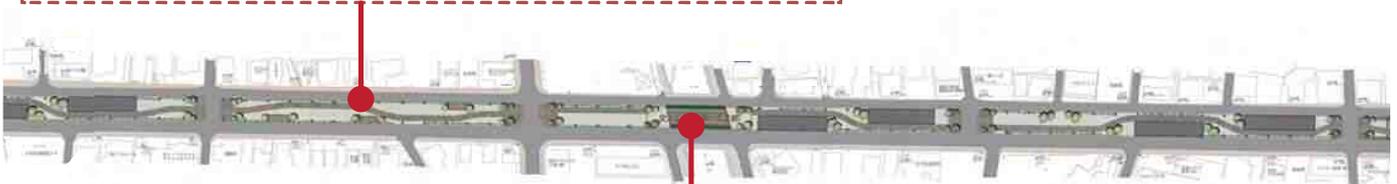
## ■春日原駅～白木原駅間

### 【高架下アートフェア】

- 目的** : 活動やつながりを育む
- どこで** : 遊歩道
- 誰が(誰と)** : 市ゆかりのアーティストやクリエイター
- いつ** : 年に数回程度
- 概要** : 大野城市在住又はゆかりのあるアーティストやクリエイターのアートイベントの場として活用し、作品の展示やオリジナルグッズ等を販売の行う。



横浜市黄金町バザール  
(タウンニュースホームページより)



0 50m 100m

### 【「レールあんどハイク」のスタート会場】

- 目的** : 学びを育む
- どこで** : 交流広場 (牛頸川交差部)
- 誰が(誰と)** : 西鉄関係者等
- いつ** : 年に4回程度 (季節毎)
- 概要** : 季節毎に開催する大野城トレイルウォーキングイベントのスタート地点会場として活用する。



レールあんどハイク  
(西鉄ホームページより)

### 【白木フェスティ原】

**目的** : 活動やつながりを育む  
**どこで** : 白木原駅東口駅前広場  
**誰が(誰と)** : 白木原商店会  
**いつ** : 年に1回  
**概要** : 地元の飲食や物販等を出店するイベントの場として活用する。ステージイベントや出店等、地



域の交流のイベントを行う。

白木フェスティ原  
(白木原商店会 facebook より)

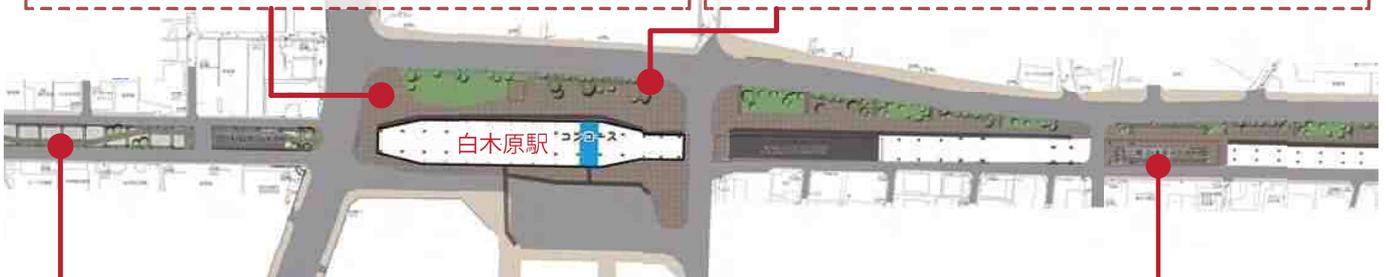
### 【大野城マルシェ】

**目的** : 活動やつながりを育む  
**どこで** : 白木原駅東口駅前広場、歩道  
**誰が(誰と)** : 地域団体、地元飲食  
**いつ** : 月に1回程度  
**概要** : オープンスペースを活用した、定期的なマルシェイベントを行う。地域の活性化やテナントの



アピールの場につなげる。

大野城マルシェ



### 【未利用地を活用した週末キッチンカー】

**目的** : 活動を育む  
**どこで** : 未利用地  
**誰が(誰と)** : 市内外の飲食  
**いつ** : 土曜日、日曜日が集まる場を創出する  
**概要** : 遊歩道の店舗参入前の未利用地を活用して、週末限定で地元や



他地域のグルメを味わえるキッチンカーが集まる場を創出する。

熊本市花畑広場  
(KAB ホームページより)

### 【親子でDIYワークショップ】

**目的** : 学びを育む  
**どこで** : 交流広場(白木原駅～下大利駅間)  
**誰が(誰と)** : 地域のものづくり団体等  
**いつ** : 年に1回程度  
**概要** : 親子で子どもイス等を一緒につくるワークショップの場として活用する。



福岡市舞鶴公園  
(FUKUOKA MACHI CAMP PARTY  
ホームページより)

## ■白木原駅～下大利駅間

### 【筑紫中央高校文化祭】

- 目的** : 学びとつながりを育む  
**どこで** : 筑紫中央高校前広場  
**誰が(誰と)** : 筑紫中央高校  
**いつ** : 年に1回  
**概要** : 筑紫中央高校と高校前の広場・複合施設を一体的に使い、文化祭を開催する。ステージ発表や



展示、物販等、まちへ開かれた行事とする。

文化祭（筑紫中央高校ホームページより）

### 【九大生による学外スクール】

- 目的** : 学びとつながりを育む  
**どこで** : 下大利駅東口・西口駅前広場、歩道、筑紫中央高校前広場  
**誰が(誰と)** : 九州大学、地域団体等  
**いつ** : 月に1回程度  
**概要** : 九州大学（筑紫キャンパス）との協働による九大生の出前ス

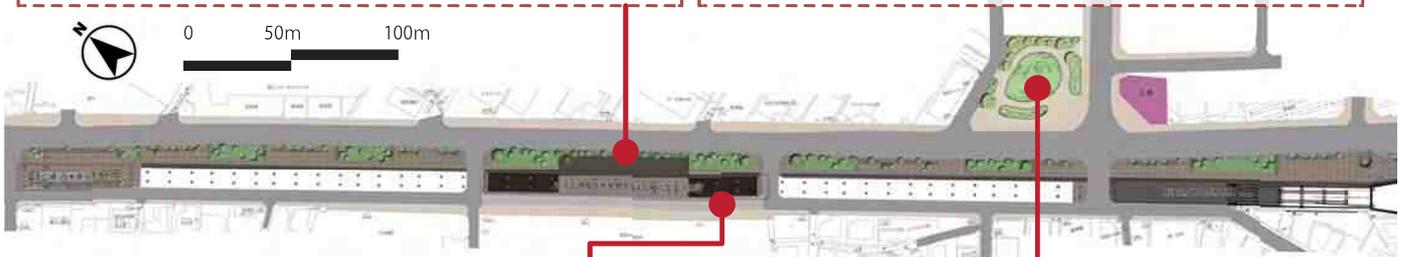


クールを実施する。実験等の体験を通じて楽しく学び、交流する場を創出する。

福岡市（九大生により学習塾ホームページより）



0 50m 100m



### 【大野城ものづくり教室】

- 目的** : 学びとつながりを育む  
**どこで** : 複合型交流施設（多目的室）  
**誰が(誰と)** : 地域のものづくり団体  
**いつ** : 月に1回程度  
**概要** : 施設内の多目的室を活用し、市が取り組んでいる生涯学習と連携したものづくり教室を実施する。



ものづくり教室のイメージ

### 【朝ヨガ教室】

- 目的** : つながり育む  
**どこで** : 下大利駅北側新公園  
**誰が(誰と)** : 地域のスポーツ事業者  
**いつ** : 週に1回程度  
**概要** : 公園のみどりの中で、朝の出勤前のリフレッシュ活動を実施する。地域での顔見知りやつながりをつくる。



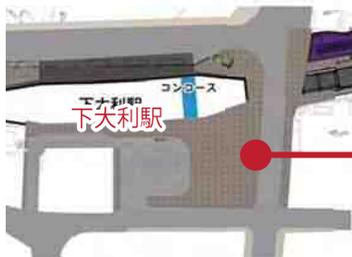
野外でのヨガのイメージ

### 【大屋根広場で映画上映会】

- 目的** : 学びを育む  
**どこで** : 筑紫中央高校前広場  
**誰が(誰と)** : 地域団体、地元飲食  
**いつ** : 月に1回程度、夜  
**概要** : 大屋根広場と高架の柱を使用して、階段やベンチに腰かけて映画を鑑賞してもらう。同時に、飲食や物販の販売を行う。



下北沢 (下北沢ケージホームページより)



### 【水城で歴史ウォーキング】

- 目的** : 学びを育む  
**どこで** : 下大和駅東口・西口駅前広場  
**誰が(誰と)** : 地域団体等  
**いつ** : 年に4回程度 (季節毎)  
**概要** : 季節毎に開催する水城ウォーキングイベントの起終点会場として活用する。



水城の見学会  
(大野城ホームページより)

## <活用イメージに関する地域ニーズ>

これまでの整備や利活用の方向性を踏まえた、活用イメージに対する地域のニーズを整理します。市内で事業や活動を実践されているキーパーソン（市内飲食系事業者、市内ものづくり系事業者、NPO法人、まちづくり団体等）を対象にヒアリングを行い、活動イメージを抽出しました。今後、これらの取り組みの実現に向けた検討や継続的なニーズ把握等を行い、市民の参加意識の醸成を図ります。

## <活用に関する結果>

	テーマ	どこで	誰が（誰と）
高架下屋内系	親子教室	複合型交流施設多目的室・広場 等	子育て関連のNPO 地域住民・教育機関 等
	幼児お預かりルーム	複合型交流施設多目的室 等	子育て関連のNPO 等
	子育てママ就職講座	同上	子育て関連のNPO、 地域事業者 等
	ママキッチン ママアトリエ	複合型交流施設多目的室、 賛同する高架下テナント 等	子育て関連のNPO、 賛同するママや地域住民
	こども食堂	複合型交流施設多目的室、 賛同する高架下テナント 等	子育て関連のNPO、大野城市、 地域住民、地域事業者 等
	チャレンジショップ	賛同する高架下テナント、 コンテナ 等	若手事業者、起業を目指している 作家 等
	観光情報ブース	複合型交流施設ロビー 駅前的高架下テナント 等	にぎわいづくり協議会 商工会 等
	展示スペース	複合型交流施設の展示スペース 等	ものづくり作家、 にぎわいづくり協議会 等
	アート展示	遊歩道、未利用地、複合型交流 施設の展示スペース 等	アート作家、 地域の学校 等
	放課後総合学習 ランドセルクラブ	複合型交流施設多目的室、 広場 等	地域の学校PTA、大野城市、 ボランティア 等
多国籍屋台村	賛同する高架下テナント 等	地域事業者、飲食事業者 にぎわいづくり協議会 等	
歩道系	ほっかけ屋台	白木原駅前広場、下大利駅前 広場、広幅員歩道 等	地域の飲食事業者
	マルシェイベント	広幅員歩道広場、広場 等	地域事業者、 にぎわいづくり協議会 等

いつ	概要
定期 週1日程度	未就学の子どもや保護者を対象とした親子教室で、保育士等の指導により、季節の行事、体操、制作リズム遊び等の体験を実施。
定期 週1日程度	未就学の子どもが、お母さんと離れて同年齢の友達と過ごす慣らし保育のサービス。保育士等のもとで友達と一緒にいろいろな遊びを楽しむ。
定期	子育てをしながら仕事をしたいママのための講座。講座とあわせて、人材を求める企業や団体とのマッチングを実施しながら効果を高める。
定期	ママの得意を生かす取組みとして、ママの料理やものづくりのサービスを受けられるレストランやアトリエを開き、多くの方の参加に向け、月替わり等で運営する。
定期	すべての子どもたちが対象の、多様な協働による「こども食堂」で、安心して過ごせる居場所づくり。あわせてフードバンクの運営を行い効果を高める。
月替わりの 期間限定	小規模な区画が複数軒寄り集まったチャレンジショップゾーンをつくり、月替わりで販売を行う。ママの活躍の場の創出や若手育成、起業支援の効果を高める。
常時	市や周辺の観光情報の提供スペース。市を訪れた際、はじめにこの場所に来てもらい、様々な観光地や体験に展開してもらうための拠点となる。
月替わりの 期間限定	商品や作品の展示・物販スペースを設け、作品を知ってもらうPRコーナーとする。
期間限定	期間限定でアート作品の展示を行ったり、高架の柱に絵を描く等、子どもの作品の展示では、家族で高架下に訪れるきっかけとなる。
平日夕方	既に実施されている「ランドセルクラブ」の活動を高架下周辺でも展開し、スポーツ・文化・体験などの活動を行う。
常時	様々な国籍の食や文化を味わうことができる屋台。留学生や海外からの来訪者にも優しく、多様な人々を歓迎する場所づくりを行う。
平日夕方～夜間	市の特産品である鶏ばっかけを、立ち食いスタイルの屋台で提供する。市の食文化の発信と、気軽に立ち寄れるファストフードを提供する。
平日夕方 週末	市内外で既に開催されているマルシェイベントを高架下周辺でも展開する。簡易屋台等気軽に実施できる設備により、マルシェを定番化する。

	テーマ	どこで	誰が（誰と）
歩道系	はしご酒イベント	駅前広場（本部機能） 賛同する高架下テナント 等	地域事業者、商工会 等
	移動式店舗	広幅員歩道、広場、 高架下未利用地 等	地域事業者 等
	イルミネーション	遊歩道、広幅員歩道 等	地域住民 等
高架下広場系	様々なイベントが連携する 同時多発イベント	広場、広幅員歩道 等	地域の協議会 等
	地域のおまつり	広場、広幅員歩道 等	地域の協議会 等
	青空ヨガ教室	広場、公園、 高架下未利用地 等	スポーツ関連の事業者、地域の ヨガインストラクター 等
	ものづくり ワークショップ	広場、公園、 複合型交流施設多目的室 等	ものづくり系の地域事業者 等
	ブックスタンド	広場 等	公民館（文庫スペース） 等
	高架下映画祭	広場 等	地域事業者 等

## <体制・仕組みに関する結果>

活用に関するニーズが把握でき更に、参加の仕組みや運営の体制づくりに向けても様々な意見を整理することができました。ここでは、それらの意見と見えてくる課題について整理します。

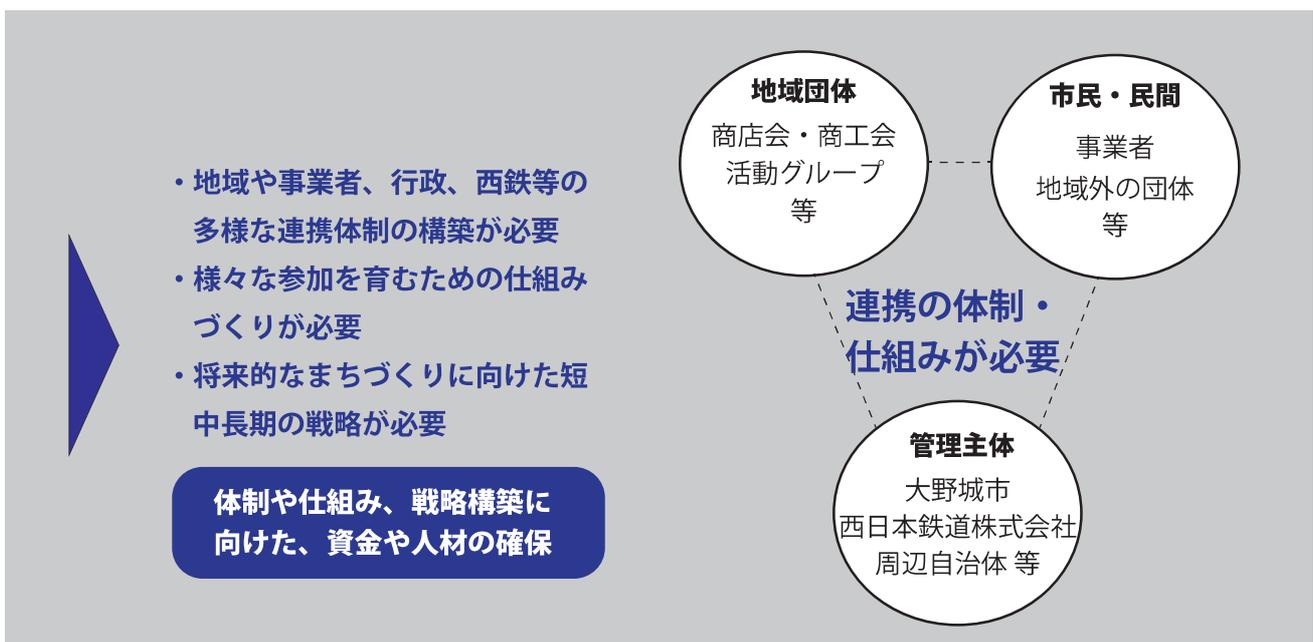
### <運営体制について>

- ・ 商工会や商店会等の団体がある中で、本計画に対する**地域団体としての連携の在り方について検討**する必要がある。
- ・ 活用の内容に子育てや起業、就労支援等公的な側面があるものについては、**行政との連携や事業者におけるCSR活動（企業の社会的責任：企業による、事業を通じた社会貢献活動）などとの連携**が必要である。
- ・ 高架下の事業者や道路・広場でのイベント主催者、周辺地域住民の連携を高めるため、**地域や行政、事業者等の話し合いの場**が必要である。

### <仕組みについて>

- ・ 道路や公園、広場等の公共空間活用や市民参加の促進に向けては、**活用における手続きの簡略化や占用料の減額措置等**が必要である。
- ・ 企画や運営に関わる話し合いへの参加から、単発的なイベントへの協力等、参加者に応じた**関わり度合いの多様性**が必要である。
- ・ 整備スケジュールに合わせて、勉強会等の学びの場や、実験的イベントの実施による取組みの検証等、**継続的な市民参加の場**が必要である。

いつ	概要
定期	周辺の飲食店と連携し、はしご酒イベントを実施する。高架下周辺のみならず地域への回遊性を高め、飲食店としてはPRの機会となる。
常時	車両が乗り入れられるスペースを活用し、キッチンカーのような気軽に出店が出来る仕様の店舗を設ける。
11～2月の夜間	にぎわいづくりの演出として、冬の期間にイルミネーションを実施する。
定期	既に開催されている地域の行事等と連携し、高架下周辺の様々な場所を使った同時多発的なイベントとして展開し、回遊性を高める。
年1回程度	既に開催されている地域の行事（ハロウィンイベント、白木フェスティ原、七夕等のイベント）を、高架下周辺の場所を活用して開催する。
定期	ヨガの専門家と連携して、スタジオで行う教室を屋外でも実施し、健康的な街のPRや新しい広場活用のきっかけとしていく。
定期	木工やDIYなど、体験型のイベントを開催する。広場に設置する本棚やベンチ、プランター等をつくり、高架下周辺のまちづくりへの参加の機会とする。
常時	移動式の本棚を設置し、定期的に本を入れ替えていく。図書館では騒ぐことができないが、開放的な空間で、本に触れることができる。
定期	高架下周辺の大きな壁に投写しての映画祭。学生が作った自主映画の発表やプロジェクションマッピング等の活動にも展開する。



# <実現に向けたステップ>

短期、中期、長期のそれぞれの段階に応じ、効果的な施策を行っていくことで、高架下周辺のにぎわいづくりとその組織や仕組みをみんなで育てます。それぞれのステップでのロードマップを描き、各段階で実施すると効果的な施策を以下に示します。

## 準備期

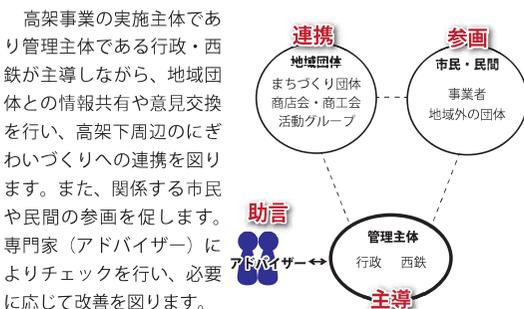
## 立ち上げ期

## 活動期

### 現在～高架切り替え後1年

にぎわいづくりの将来像を共有し、個々のポテンシャルを高め、機運を醸成します。

目標を共有、課題を把握し、にぎわいづくりの仕組みを検討します。地域団体は、まずはできる取り組みから始め、小さな成果を積み上げ、仲間づくりを行っていきます。また、取り組みを通じ、積極的なPRを行うことで高架下事業の認知度を高め、民間参入の可能性を高めます。

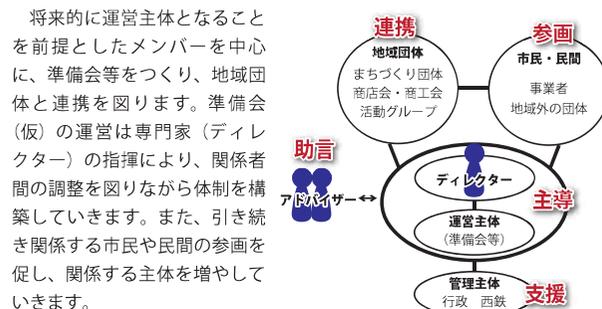


- ・管理主体となる行政と西鉄の検討・協議を継続する。(協議会等)
- ・市民や関係団体との意見交換を継続する。(まちづくり会議等)
- ・市民の参画を促す学びの場を設ける。(勉強会等)
- ・資金運営と人材確保について検討を行う。(関係機関協議等)

### 高架切り替え後1年～高架切り替え後4年

市民・事業者・行政が連携し、体制と仕組みを整え、効果的なプロモーション(市内外向け)を仕掛けていきます。

部分的に供用された場所等を活用し、将来的な活用を見据えた社会実験や試行的な取り組みを行います。地域が主体となり、持続的に高架下周辺の場を使いこなしていくために、仕組みを整備し、将来的に運営主体となることを前提としたメンバーを中心に体制を構築していきます。また、市内向けと市外向けの両方の視点でのプロモーションを積極的に展開し、高架下事業やプロジェクトをPRします。

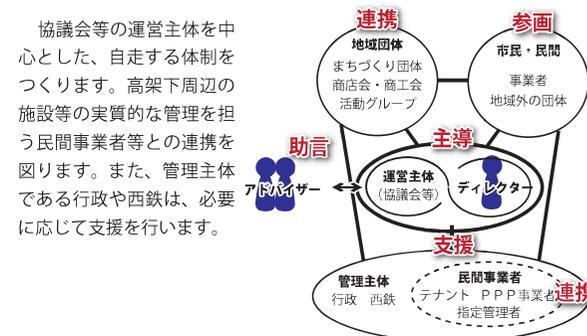


- ・ディレクターを配置し、運営主体を立ち上げる。(準備会等)
- ・行政や西鉄の支援メニューを整える。(補助や規制緩和等)
- ・社会実験を実施し、ルールや仕組みを構築する。(道路占用、活動登録制度、参画しやすいプラットフォーム、CSR活動との連携等)

### 高架切り替え後4年以降

改善しながら、さらなる展開を図ります。

完成した施設や広場等を活用し、本格的な活動を始動していきます。民間のノウハウ等も生かしながら、活動の規模の拡大や、高架下周辺のみならず大野城全域、西鉄沿線地域や筑紫地域での連携を図る等、より大きな活動へと展開していきます。



- ・ディレクターとともに、自走する運営主体を構築する。(協議会、法人等)
- ・管理主体である行政や西鉄は、テナントなどの民間事業者が積極的な活動を行えるような官民連携事業を展開する。(PPP事業等)
- ・西鉄沿線地域や筑紫地域等広域での連携を図り、より大きな活動へと展開していく。

時期の目安

目標・活動イメージ

必要な役割・体制

取組み内容